

## 母校で授業「研究という職業」

### 県立米子東高校の職業研究

2009年10月14日、鳥取県立米子東高校では「総合的な学習の時間」において職業研究の時間がもたれました。このプログラムは、生徒さんが進路や職業について考えることを目的としたものです。鳥取環境大学からは、米子東高OBである情報システム学科・秦野教授が講師を務め、約50人の1年生を前に、高校時代の思い出、研究・開発の意味、研究者の生活、研究で大事なこと、などを話しました。



米子東高校の正面玄関

### 授業の概要

高校時代、特に1年のときは、非常に楽しい思い出がある。たくさんの友達ができたし、素晴らしい先生に出会えた。みなさんも一生付き合える友達を作ってほしい。

高校を選ぶとき、大学を選ぶとき、会社を選ぶとき、そのほかにも様々なタイミングで、進路を選択してきた。それはみなさんも同じだろう。振り返ってみると、何百とある枝分かれの先の一つにいるが、それを後悔してはいない。今を肯定的に受け入れて、今の持ち場で精一杯、積極的に生きることが大事だと思っている。

仕事は、NTTでの研究を選んだが、とても興味深い仕事だった。およそ30年間の研究生生活の中で、多くの研究者、先輩や後輩との出会いは、非常に貴

重な財産になった。研究成果といえば、光ファイバーケーブルの実用化くらいだ。しかし、国内・国外に張り巡らされている光ファイバのケーブルは私たちの成果だという自負があるし、誇りに思っている。

研究の面白さは、自分の仮説（アイデア）を実証する面白さといえる。仮説が証明されたときは、それまでの苦労がふつとぶ。逆に辛いときは、壁にぶつかったときや、周囲から評価されないとき。でも、それは、研究に限ったことではない。

研究で大事なことは、考えること、試すこと、議論すること、発表すること。こういうことが好きな人は、研究者を目指すのは一つの道かもしれない。

高校のうちにやっておいて欲しいことは、次のこと。

- ①自分で考える癖をつけること
- ②考えたことややったことを表現できること
- ③自己管理ができること

これらのことは、どういう進路を選ぶにせよ、大事。また、理系の人も、国語は充分勉強してほしい。

以上のような講義に対して、生徒さんからは、たくさん質問がありました。例えば：

Q：英語の論文も読むのですか？

A：90%は英語です。

Q：研究は一人ですのですか？

A：チームでやるのが多かったです。

Q：大学院に行くことは必須ですか？

A：必須ではありませんが、理系の場合、大学院に進学する人が多いのは事実です。

